

金屋屋根の歴史

武蔵国秩父郡で自然銅が発見  
年号も「和銅」と改められる

天智 1年

銅塊を瓦状に鋳造加工して使用  
巨大寺の銅瓦、日蓮りて解ける

天智 17年

安土城、大寺 銅で葺く

天智 23年

大原城、大寺 銅瓦葺き

天智 24年

足尾銅山発見

鎌倉城、大寺 葺上層銅板葺き

名古屋城 天守、銅瓦

西本願寺、高雲閣、銅板葺き

日光東宮、透輝塚、銅瓦葺き

江戸城、御対馬所・東書院、御数寄屋など 銅瓦葺き

日光東照宮、銅瓦葺きに葺き替え、

芝台徳院、銅瓦葺きに葺き替え

川子銅山発見

護国寺本堂、五輪銅瓦葺き

東大寺大仏殿、銅瓦葺き

金沢城、石川門、銅瓦葺き

弘前城、大守、銅板葺き

五箇神社本殿、銅板葺き

金刀比羅宮、社、銅板葺き

築地ホテル、銅瓦葺き

神戸の異人館に改板屋根 明治5年頃まで

横浜、新橋駅の屋根に改板屋根

第一国立銀行 屋根銅瓦葺き

日本銀行本店 屋根銅板葺き

豊和鉄板の輸入量 約4,415t

統計上初めて確認出来る数字

アスファルトルーフィング、米国から輸入

八幡製鉄所で豊和銅板(切板)の製造開始

赤坂砲台、屋根銅板葺き

山田郵便局、屋根銅板葺き

日本生命保険九州支店、屋根銅板葺き

豊和銅(銅・鉄製鋼) 大阪で豊和鉄板の製造開始

豊和銅(銅・鉄製鋼) 大阪で豊和鉄板の製造開始

豊和鉄板の製造開始

アスファルトルーフィング、生産開始 田島応用化工

東京駅、ドーム屋根に銅板を使用

フリスカの製造開始

築地ホテル、二層に銅瓦葺き

新日鉄製鉄の鋼、ステンレス産出



豊和銅(銅・鉄製鋼) 大阪で豊和鉄板の製造開始

豊和銅(銅・鉄製鋼) 大阪で豊和鉄板の製造開始

豊和銅(銅・鉄製鋼) 大阪で豊和鉄板の製造開始



年	出来事	写真
1911年	アスファルトルーフパブリックの生産開始 田島乾用化工	
1912年	英商「ドーム」洋行に特許を授与	
1913年	ブリキ板の製造開始	
1914年	帝國ホテル 洋館に鋼瓦葺き	
1915年	新日新製鉄株式 ステンレス張り	
1916年	川上守彦に代つて創業	
1917年	日本で初めての建築物について蒸気実験	
1918年	洋館アルミのつき アメリカ	
1919年	蒸気鉄板會 発足	
1920年	甲子園球場	
1921年	金剛山本山少林寺大改修 屋根葺き	
1922年	蒸気鉄板ゴイルの生産開始 八幡製鉄所	
1923年	カラー鋼板(切板)の生産開始	
1924年	立平葺き完成 三晃金属工業	
1925年	心木なし瓦葺き完成	
1926年	鉄骨母屋上に瓦工 三晃金属工業	
1927年	塩ビ瓦とい 松下電工	
1928年	東横製鉄半を開業 三晃金属工業	
1929年	(社)日本長尺金属工業會 設立	
1930年	(現)日本金属板協會	
1931年	東京オリシビック食堂 蒸気鉄板瓦葺き	
1932年	洋館うちみアルミニウム蒸気給食めつき アメリカ	
1933年	フナムエース開発	
1934年	会社設立 蒸気給食に川上守彦社長	
1935年	蒸気給食館の製造機完成	
1936年	鋼板の使用片は800tを越える	
1937年	はせ博の片山を開発	
1938年	洋館うちみアルミニウムめつき ベルギー	
1939年	フナ博洋館蒸気給食板を販売	
1940年	かん合形折半を開発	
1941年	洋館うちみアルミニウム	
1942年	蒸気給食めつき鋼板(ガルバリウム鋼板)の生産開始	
1943年	フナ博エース開発	
1944年	蒸気給食館うちみアルミニウム合金	
1945年	洋館蒸気アルミニウムマグネシウムめつき鋼板	
1946年	(JAM)生産開始 日本製鋼	
1947年	蒸気給食うちみアルミニウム蒸気給食めつき鋼板	
1948年	鋼板製造機構造標準(S&S&R)発行	
1949年	鋼板製造機標準(S&S&R)制定	
1950年	東日本製鋼	
1951年	エコーターナー開発	
1952年	エコーターナー改良	
1953年	エコーターナー改良	
1954年	エコーターナー改良	

